

せいきょう連ニュース

CO-OP 岡山県生活協同組合連合会 TEL: 086-230-1315 岡山県生協連 検索

会員生協トピックス

こくみん共済 coop 岡山推進本部（岡山県労済生協）

7才の交通安全プロジェクト

公式キャラクター
ピットくん

横断旗を、岡山県交通安全対策協議会などに寄贈

小学生になり行動範囲もぐっと広がる7才は、他の年齢に比べて交通事故に遭いやすいというデータがあります。こくみん共済coopは、「未来ある子どもたちを交通事故から守りたい」そんな思いから、2019年より、みんなで子どもたちを交通事故から守っていく「7才の交通安全プロジェクト」に取り組んでいます。

当プロジェクトの一環として、マイカー共済の見積もり1件につき横断旗1本を寄贈する活動を行っており、全国の児童館・小学校に横断旗を寄贈しています。



（左より2人目）こくみん共済coop 二宮本部長
（右より2人目）岡山県県民生活部 池永部長



岡山市私立認可保育園・認定こども園
園長会 高山会長（右）と、こくみん共
済 coop 岡山推進本部 西村課長

2月27日（月）、岡山県庁にて行われた寄贈式では、こくみん共済coop岡山推進本部 二宮卓志本部長らが参加し、岡山県県民生活部 池永亘部長に目録が手渡されました。寄贈した横断旗3,500本は県内の幼稚園や小学校で活用いただきます。

また2022年12月19日（月）には、岡山市私立認可保育園・認定こども園園長会で、岡山市のこども園や幼稚園へ横断旗840本やなわとびなどを寄贈しました。

交通事故のない、安全な社会づくりのために、引き続き皆さまとともにこの活動に取り組んでまいります。

玉島市民交流センター防災イベント

3月4日（土）、玉島市民交流センターで「防災フェスタin玉島」が開催されました。こくみん共済coop岡山推進本部は防災体験コーナーとして、ワークショップを実施しました。当日は子どもたちを中心に多くの方にワークショップを体験していただきました。ぼうさい迷路と新聞紙スリッパ作成では、災害への備えについて学んでいただき、VR災害体験では仮想空間で災害の怖さを体験していただきました。



VR 災害体験



ぼうさい迷路体験の様子



新聞紙スリッパ作成の様子

三井造船生協

「たまののBABY BOX」

三井生協は、玉野市や市内の事業所と協力し、2歳までの子どもがいるご家庭へ「たまののBABY BOX」の配布を始めました。

このベビーボックスは、玉野市と少子化対策などの包括連携協定を結んでいる三井生協が、子育てに温かいまちづくりに賛同する市内の事業所に呼びかけ企画しました。玉野市のイメージキャラクター「ののちゃん」が描かれたボックスの中には、赤ちゃんのよだれかけや、家庭料理に使える食品や調理用品、渋川マリン水族館や渋川動物公園の入園優待券など17点が入っています。玉野市が行う新生児訪問の時などに案内が配布され、申し込みをされたご家庭へ三井生協がお届けします。

「たまののBABY BOX」配布初日となった3月17日（金）、玉野市役所にて贈呈式が行われ、招待された3組の親子に「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを込めて手渡されました。



倉敷医療生協

地域みんなで子育てを応援

2月10日（金）、地域の子育てグループ「ままん」の主催で、「上成ふれあいの家」（倉敷市玉島）を会場に子育てサロンが開催されました。

地域ぐるみで子育てを応援しようと、倉敷医療生協や倉敷市保健推進室、愛育委員・栄養改善委員、高齢者サロン「すみれ会」のメンバーなど約30人が一緒に活動しました。

お母さんが健康チェックや健康づくりの学習をする間、子どもたちは支援者と遊び、3世代の交流を楽しみました。



岡山県学校生協

南極観測隊参加経験のあるスタッフによる「南極クラス」を開催しました

各学校、ミサワホームグループ、国立極地研究所のご協力をいただき、子どもたちにとって“未知の世界”である南極での活動を伝える『南極クラス』を、2022年度は、玉川小学校、水島中学校、福渡小学校、大和小学校、草間台小学校、矢掛町立川面小学校・美川小学校（合同開催）で開催しました。

今後も、南極観測の意義や自然環境を守る大切さなどを学習できる『南極クラス』を教育支援事業として引き続き推進してまいります。



おかやまコープ

トルコ・シリア地震の被災地を支援

2月6日に発生したトルコ・シリア地震では、死者は5万人を超え、多くの避難民が発生しさらに被害が拡大しています。(2月22日時点)

おかやまコープはAMDAとの協定に基づき、トルコで行う被災者

緊急支援活動へ支援金50万円を「AMDA基金」から拠出しました。

また、日本ユニセフ協会の要請に応え「自然災害緊急募金～トルコ・シリア地震～」へ、組合員

から寄せられたユニセフ募金から100万円を贈呈しました。2月28日(火)、オルガ本部にて募金贈呈式が行われ、平田昌三理事長が岡山ユニセフ協会の片岡雅子専務理事に目録を手渡しました。



岡山ユニセフ協会片岡専務(右)に目録を手渡す平田理事長



被災地で支援活動をするAMDAの医師(写真提供:AMDA)

フードドライブの活動が広がっています

2月11日(土)、コープ総社東で、ふくしネットそうじやおかやまコープ主催でフードドライブが行われました。フードドライブは、家庭などで食べ切れず未開封のまま保管されている食品の寄贈を受け、必要とする団体・施設や個人に提供する活動。提供いただいた食品は、総社市社会福祉協議会を通じて、必要とする方々に届けられます。この他にも各エリアで「もったいない」を「ありがとう」に」を合言葉に、活動が広がっています。

また、倉敷市社会福祉協議会の「互近助パントリー」とおかやまコープが協働し、コープステーション茶屋町において常設型のフードドライブに取り組むこととなり、3月20日(月)に開設式が行われました。



家庭で余った食品をコープ総社東店頭で受け付け



コープステーション茶屋町に常設型フードドライブ開設

岡山医療生協

「リサイクル交換会」を開催

3月9日(木)、岡山医療生協くらしとボランティア委員会主催で「リサイクル交換会」を開催し、当日は約50人が参加しました。支部班長会や機関紙で組合員にお知らせし、使用可能な日用品・衣類・雑貨・食料品の提供を呼びかけ、多くのリユース品が集まりました。

「私にとって不要な物でも、誰かにとっては必要な物になる。またコロナ禍でサロンや支部行事が制限される中、つながりを切らさないこと」を目的に行った「リサイクル交換会」は大盛況でした。



津山医療生協

プリザーブドフラワーに挑戦

2月27日（月）、津山医療生協久米支部では、プリザーブドフラワーに挑戦しました。

予定より多い約40人の参加があり、講師から教わりながら、各自が自分なりのプリザーブドフラワーのブーケやリースなどを作って楽しみました。植物の種類の違いだけでなく、使用する包装資材や容器にも工夫を凝らし、個性豊かな作品がたくさん出来上がりました。

また、2022年11月には東部支部が多肉植物の寄せ植えに挑戦して、とても好評でした。



岡山大学生協

入学準備説明会の対応

岡山大学生協では例年、入学前の新生と保護者を対象に「入学準備説明会」を開催しています。今年は、コロナ対策のため一度の参加を25組に限定し、1月から3月まで13回開催しました。説明会の運営は岡山大学生協学生委員会（C.C.C！）のメンバーが中心となり、先輩の大学生活の様子や入学前に大学生活に必要な準備や手続きができる内容となっています。具体的な内容は「先輩の大学生活紹介」「岡大生の食生活について」「岡大生の学びについて」「安心した大学生活への備えについて」などとなっており、説明会当日に「生協・共済加入」や「各種入学準備商品のお申し込み」などの手続きも行っていました。

また説明会終了後には「生協食堂お試し券」を参加者全員にお渡しし、生協食堂の利用体験もしていただいています。



◀説明会全体



生協食堂お試し券



個別相談タイム



質問タイム▶

各地区で地区組合員総会を開催

各地区で地区組合員総会を開催しました。会場での参加、書面での参加、参加方法はそれぞれですが、一年間の活動のとりくみ・来年度の方針などについて報告し、組合員同士で意見交換する大切な行事です。2023年度も組合員一人ひとりの想いを組合員活動に活かしながら、一步一步すすめていきたいと思っています。



真備を元気にしたい！

平成30年7月豪雨から5年目を迎えます。この間、私たちは地域住民や支援団体、活動に参加された方々と多くの出会いがありました。そのご縁を繋ぎながら支援活動を続けています。地域づくりのひとつとしてスタートした「まび畑プロジェクト」、地域の繋がり深める「イベントのお手伝い」、真備を元気にしたい！みんなが気軽に集えるような場所を目指して開設した「おひさま広場の運営」など、これからも、地域住民・他団体と連携しながら、私たち組合員にできる支援活動を継続していきたいと思っています。



おいでよseedSの輪 ～入学準備説明会～

3年ぶりに対面での入学準備説明会を実施しました。新入生と保護者を対象とした説明会ですが、対面ならではの企画として、はじめにアイスブレイクを取り入れ、参加者の緊張をほぐしました。その後、生協職員から加入や入学準備の説明に加え、seedSメンバーによる大学生活紹介やフリートークの時間を設け、新入生や保護者の不安解消と大学生活への期待へと繋げました。さらに、seedSの活動紹介、新入生交流会のチラシ配布、各自名刺を使用し、seedSの広報活動を行い、また先輩学生との縦の繋がりを作るよいきっかけにもなりました。



“今だから考えよう、食べること”

「2022年度組合員活動交流集会」がオルガなど各生協のサテライト会場、YouTubeライブで開催され、約120名が参加。食べ物（栄養）と健康とのつながりを疫学的に調べる「栄養疫学」研究の第一人者、東京大学大学院医学系研究科 社会予防疫学分野教授 佐々木敏（ささきさとし）先生による講演や各生協の活動報告が行われました。物価高騰で食費が上がっても食は大切、5年・10年先の自身と家族の健康のために知っておくべきことを学びたいと企画されたものです。



佐々木先生の講演「知って納得、たしかかな栄養・健康情報をあなたに～本当の栄養・健康情報の見方と選び方～」では、テレビや雑誌、インターネットでは、大量の根拠薄弱な栄養・健康情報が流される一方で、減塩といった地味だけれどとてもたいせつな情報はあまり流されていないこと、確かな栄養・健康情報とは何か、その見分け方などについてお話されました。「食塩は、1日平均として何g食べたらそれ以上いらないか」など、栄養学クイズを交えながらデータや事実に基づいた考え方や確かな情報を得て行動することが大切であると強調されました。



また、各生協の活動報告では、それぞれ特長ある食に関わる活動が紹介され、佐々木先生からご講評いただくことができました。



「推定塩分摂取量検査の取り組み」

岡山医療生協 明関 祐也 さん

組合員主導で健診と一緒に食塩摂取量を調べ、減塩への意識向上につなげている取り組み、8年間の集計結果や課題、「すこしお生活」の推奨などが報告されました。「とても現実的で、身につまされました。じぶんもしっかり減塩に取り組もうと思いました。」等の声がありました。



「たべる・たいせつ応援隊 活動報告」

おかやまコープ 山本 佳子 さん

応援隊ができるまでの経過やたべる・たいせつの考え方、コロナ禍での活動、地域との連携や広がりなどについて報告がありました。「私も活動していて、今までのことを思い出し、また頑張ろうと思いました。」等の感想が寄せられました。



「組合員活動報告」

グリーンコープ生協おかやま 飯村 美智子 さん

こども基金、かさじぞう基金やフードドライブの取り組み、学校や地域との連携、組合員カンパの呼びかけなどが報告されました。「いい取り組みをたくさん知ることが出来て参考になりました。」等の感想が寄せられました。

参加者からは「クイズは間違いだらけでしたがとても勉強になった。減塩をもっと意識して取り組みたい」、「生協活動＝私たちの生活応援。自分にできるとで応援したい」等、前向きな感想や佐々木先生のお話をもっと聞きたいという声が多数寄せられました。

★見逃し配信（2023年4月末まで）
<https://youtu.be/q1nVdHd2ie4>



健康づくりや生活習慣の見直しに 10,491人が参加



ヘルスチャレンジは、生活習慣の見直しと健康づくりの習慣を身につけることを目的に、「運動」「食事」「お口」を中心とした健康づくりに30日間チャレンジし健康増進を目指す取り組みです。生協組合員や地域の方をはじめ、公民館や学校、県内の協同組合などに案内し、コロナ禍でも前年より多い10,491人が参加しました。寄せられたアンケート（3,600人回答）のうち、「たいへんよかった」「よかった」が91.7%となり、取り組みの満足度は高かったと考えられます。また学校などからは、コロナ禍で運動する機会が減少しているなかで、心身の健康の保持増進に役立ったという声も寄せられました。「ヘルスチャレンジ2023」を計画中です。お楽しみに。

〈参加者の声〉

- 父、姉とウォーキング。父は今年100歳。老人車を押しながら自分で歩くことに、また親子水入らずの楽しい時間を持てることに幸せを感じています。
- お母さんといっしょに、はやねはやおきをしました。ぼくは、ゴミ出しの係で、お手伝いをしました。
- 減塩を心がけ、野菜とタンパク質を多く摂る食生活にしました。家族の体調も今まで以上に気にかけるようになりました。



ヘルスチャレンジ応援企画の、ノルディックウォーキング体験
(津山医療生協)

適格消費者団体 消費者ネットおかやま

適格消費者団体連絡協議会に参加、 プレ企画 事例報告で「インシップ訴訟報告」をしました



3月11日、適格消費者団体連絡協議会がオンライン開催され、全国から適格消費者団体*の関係者約130名が参加し、活動報告・意見交換を行いました。

消費者庁から1月5日改正消費者契約法の解説、消費者法有識者懇談会等の報告がありました。また、東京大学名誉教授河上正二先生から「消費者契約法をはじめとした今後の消費者法制の在り方について」をテーマにご講演いただきました。消費者契約法の特定商取引法化傾向に問題があるとした上で、「消費者法での闘いが民法をも変えていくことになる。消費者

をどうとらえるか問題意識をもって、特定適格消費者団体や適格消費者団体は、裁判所の判断に臆することなくもっと本質的な主張を出して道を切り開いてほしい」と語られました。

「差止請求訴訟及び被害回復訴訟の判決等の検討」のプレ企画では、消費者ネットおかやまから株式会社インシップに対する訴訟経過報告を行いました。全国の参加者から、請求の趣旨の見直しや、製品についての主張立証がないのかなどの質問意見をいただきました。



消費者庁
イラスト集より

※適格消費者団体…不特定かつ多数の消費者の利益を擁護するために差止請求権を行使するために必要な適格性を有する消費者団体として、内閣総理大臣の認定を受けている。現在、全国に23団体ある。

1月13日

県生協連・会員生協 役員研修会を開催

パラにみる多様性のある共生社会の実現



「生協のみなさんも、
次の世代に伝える仕事をしてる、
一緒だなと思う。」

県生協連・会員生協役員研修会がオルガホールにて開催され、61名（会場44名、オンライン17名）の役職員が参加しました。岡山県県民生活部くらし安全安心課の塩飽成史課長を来賓に、パラノルディックスキー日本チームゼネラルマネージャー荒井秀樹さんを講師にお招きしました。

荒井さんは「パラリンピックの最前線 新田佳浩の金メダルへの道」と題して、7大会連続でパラリンピックメダリストを輩出するチームをどのようにつくってきたのか、中学生の新田選手との出会いやパラリンピックの認識の変遷を語られ、障がいを受け入れ可能性を伸ばすこと、「できない」と諦めないでできるための工夫と継続が大切なことなどを話されました。障がい者と健常者、障がい者同士の交流が本人と周りを変え社会を変えていくこと、子どもたちと交流し

パラに触れる「体験」をすることが多様性・共生を理解する大人を育て、障がい者のための仕組みづくりが結果として誰もが住みよい街をつくることなどを豊富な事例を交えて語られました。

日本生協連やおかやまコープが贈った食材が選手にとっても喜ばれていること、応援メッセージが力になっていることに感謝を述べられ、「ぜひ選手の活躍を見てもらって、SNSにいいね！をしてほしい。選手の励みになります。応援をよろしくお願いいたします。」と力強いメッセージを残されました。

会の終わりに、岡山県生協連から日本障害者スキー連盟に、シットスキー製作費を寄付贈呈しました。パラスキーの普及拡大や子どもたちへの競技体験の機会が増えるよう、活用されます。



荒井さん講演資料より



県生協連 和泉かよ子理事から目録を贈呈

おしえて、阿南さん!

2023年度消費者月間講演会のご案内

消費者市民社会づくりにむけて、 わたしたちにできること

参加無料

「消費者市民社会って?」「わたしたち消費者や消費者団体の役割って?」
誰もが安心して安全で豊かに暮らす社会の実現にむけて、いっしょに学びませんか。

日時 **6月3日(土) 14:30~16:30**
(終了予定)

申込メ切
5月19日(金)

会場 **オルガホール** (オンライン参加可)

お申し込みはこちら→



講師

元消費者庁長官

あなん ひさ

阿南 久さん

●(一社)消費者市民社会をつくる会 代表理事
●NPO法人消費者スマイル基金 理事



主催：適格消費者団体 消費者ネットおかやま、岡山県消費者団体連絡協議会 後援：岡山県

お問い合わせ ▶ 所属団体 または 消費者ネットおかやま TEL 086-230-1316